

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家 (1号館)		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成24年 9月11日	評価結果市町村受理日	平成24年11月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JiyosyoCd=2373700315-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援で、週1回くらい近くの喫茶店へ出掛け、コーヒー等注文し一時を語り合いながら楽しく過ごされています。 ・お食事は 朝 昼 夕 手作りで、皆さん楽しみにされている様です。 ・カラオケを唄う設備があり、3号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指します。 ・個別ケアとしてはなかなか出来ないが、月に一度、利用者と職員で手作りし、食事会を催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は長期就労の経験者が多く、管理者と共に利用者本意の介護を目指し、チームワークをもって臨んでいる。職員は自由に意見を言える環境にあり、実現可能な提言は速やかに実行するネットワークの軽さを確認した。事例として、利用者と好物の話題となり、職員の掘んだ利用者の思いをミーティングに提言した。結果、全利用者に聞き取りを行い、希望を叶えるべく「手作りイベント」の開催となった。プリン、カキ氷、おはぎなどが、毎月の催しとして利用者を楽しませている。</p> <p>ホームイベントとしてプロの演歌歌手のショーを企画し、利用者、家族、そして地域から20名の参加を得た。聴衆は、歌の上手さに感激の涙を流す盛大な催しとなった。ホームは、地域の祭りの子ども獅子舞の立寄り場所となっており、普段から子供達が遊びに訪れる関係にある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。	管理者は長く踊りのボランティアを行い、福祉施設の訪問ボランティアを行なっている。明るく前向きな人柄を求心力として、職員とともに理念を共有し日々の実践に反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れをして下さいます。中学校の行事、地域の秋祭りに参加したり、子供会の資源回収に協力しています。回覧板を活用し、行事等を伝達しています。	中学校の体育祭に席を用意され、出かけて見学をする関係にある。また、ホームの行事として、プロの演歌歌手のショーを企画し、地域から20名の参加を得ており、地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽にホームに見える様に、日頃の行事を通して顔なじみになり、認知症の方々の自立されている姿を理解し、知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り上げられた検討事項や経過報告を行っています。また生活安全係、区長に講演をして頂き、更なるサービス向上に努めています。	利用者、家族、行政、地域の参加のうえ、年に6回の運営推進会議の開催を予定している。会議に警察官、看護師、元消防署長の区長などの講話の時間を取り、参加者は意見交換や相談を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者との情報交換を行っています。福祉課の窓口には施設案内のパンフレットを置き、アピールしています。	市の主催する「サービス事業者連絡会」を有効に使い、市および他の事業者との交流を行っている。市を訪問して事故報告、入居希望の待機者などの情報交換を行ない協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は日頃より4本柵や、日中の鍵かけには声掛けを行い、身体拘束をしないケアを意識し実施しています。	職員は法人提供のネット配信による身体拘束の研修を受講している。利用者は平屋の建物の3ユニット3箇所の玄関から自由に外出している。利用者の単独外出を制止することなく、見守りに徹し利用者の安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近、後見人をたてている利用者が増えているので、専門的な知識のある方を招き、少しずつ学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。	家族の訪問は頻回にあり、その際にはスタッフの役割として意見を聞いている。毎月、家族に送付するホーム便りには、ホームでの生活の状況をきめ細かく報告するように努め、家族の意見の抽出に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、毎週月曜日に昼礼を行い、職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。	管理者は介護職員として長く従事し、管理者の職に就いた。多くの職員が管理者の同僚であり、チームワークは良い。ベテラン、中堅、若手職員のバランスがよく、いつでも遠慮なく意見の言える関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多々に研修に参加したり、職員間で話し合ったりして、一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの稲沢 重本の家と交流を図り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。本人の不安・希望・困っている事などをよく聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかでハリももてる生活が出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者様の日々の様子や職員の思いを伝える事により、本人を支えて行く為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けていましたが、お互いに高齢化して交流が困難な現状なので、継続的な交流が出来る様に支援に取り組みたい。	友人の訪問や、家族の送迎による馴染みの理容店利用、そして自宅外出を支援している。利用者の希望を汲み取り、家族了解のうえ、職員の同行により遠方の墓参りを支援した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、全館で午前中はラジオ体操・歌を行い、午後からはカラオケ・レクリエーションを職員も一緒に行い、利用者様同士の関係が円滑になる様に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、遊びに来て貰う等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面と向かい合い、本人がやりたい事を提供したりして、意向を把握する様に努めている。	職員は利用者に優しく接し、穏やかに会話している。会話の中から把握した内容は、「介護詳細記録」に記し職員間で共有している。	職員の思いや意向の把握に個人差がある。把握の目的を明確に示し、介護計画などに反映できるよう望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の昔の話を聞いたり、面会時に情報を聞いたりしている。職員間で聞いた情報を、共有する様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で、一人々の過ごし方を優先し、現状を知るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で気付いた事を、チーム名で話し合う事で介護計画を見直す様に努めている。介護者 本人がより良い生活をされる様に、ケアプランに活かす様に努めています。	利用者、家族の思いや希望を汲み取り実践している。しかし、思いや意向の把握と介護計画に反映する意義について、職員の意識は統一に至っていない。	介護計画をADLに関する事項に止まらず、利用者の思いや意向を反映した(利用者の視点に立った)個別計画となるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護詳細記録と申し送りノートを確認し、情報を共有、介護計画の見直しに活かす様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、現状を知り、外出したり通院への付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしが続けられる様に、運営推進委員会にて、区長・民生委員・市の職員と意見交換し、地域の方に溶け込むように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に本人や家族の希望される所に対応して貰い、通院介助は家族と協力して続けていきたい。	本人、家族の希望を優先している。協力医は2週間に1度往診し、健康管理を行なっている。ホームには看護師資格を有する職員が3名勤務しており、かかりつけ医との連携役を果たしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調変化に気づき、早期に看護師へ報告し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は情報を正確に伝え、治療が出来る様にし、病院関係者との情報交換を密に行うように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やキーパーソンの意向を聞き、Drに相談し家族に早目に状況説明をする様に取り組んでいます。また状況変化があれば、そのつど対応をしています。	医師の理解を得て看取りを経験している。本人、家族と十分な話し合いを行ない、医師を交えて状況を判断し、適切な対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、落ち着いて対応できるように、日頃より職員間で話し合い、マニュアルに目を通し、冷静に対応するように心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間で役割分担を決めて想定で訓練を行ったり、地域との協力を推進委員会で訴えている。分担表を目のふれる所に貼って、絶えず確認するようにしています。	消防署の指導を受け、年2回の訓練を行なっている。通報訓練、夜間想定などを実践的に訓練のうえ、有事の際には迅速に対応できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉使いに注意し、プライドを傷つけない様に心掛けている。	利用者の立場に立った介護を心がけ、人格を尊重した丁寧な声かけを行なっている。トイレや入浴の際にはドアの開閉や視線に配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を聞き、実践出来る様に努めている。個別ケアを重点的に行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にして、業務の中で支援して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣類でお洒落を楽しんだり、移動理容を利用して、気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作る事は出来ないが後片付けをして頂き、嫌いな物があれば代替を作ったりして、楽しい食事の雰囲気味わって貰っています。	メニューと食材を専門業者に発注のうえ、ホームの手作りの料理を提供している。また、利用者は進んで片付けの手伝いを行い、自らも家事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を記入して1日の摂取量を確かめたり、水分補給は積極的に飲まれるように、一人々に声掛けを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは自主的に行う様に声掛けし、出来るだけ自分で行う様にし、出来ない方は介助し、清潔な状態で過ごして頂くように、口腔ケアを毎日実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人々の排泄パターンを把握し、オムツ類は出来るだけ最小限に使用するようにしたり、自立排泄が出来る様に支援をする。	布パンツの利用者には見守りに徹し、布パンツによるトイレ排泄を支援している。その他の利用者にはさり気ない声がけにより適切な誘導を行ない、トイレ利用の自立排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便ができる様に、水分・運動・食べ物によって予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入る時間帯は一人々に応じてゆっくりと入って、安楽を味わって貰う様に心掛けています。	週3回を入浴日とし、個浴により、ゆっくり入浴できるよう支援している。また、入浴拒否のある利用者には職員を変えたり、言葉かけに工夫し、入浴を促すよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、気持ち良く入眠できるように、お茶を飲んだり談話を楽しんだりして、眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に手渡しして確実に服薬できたか確認し、体調の変化が無いように観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々の楽しみをして頂くように、その人の出来る事はお願いしてやって頂き、生活の張りを持って貰うように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店 近場の散歩など、その日の希望に沿って行っている。	気候を考えながらの散歩は日課となっており、週1回の利用者希望の喫茶外出や近くの神社の花見外出を支援している。また、外出を好まない利用者には、ホームの敷地内にて昼食会や地区の花火見物を行い、外気に触れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、小額を持つ事により安心されるので渡しています。職員の代行の買い物で支払って貰い、出来ない方は事務所で管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話を取り次いだり、手紙の代行を行ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるい為、その都度、季節に合った物を飾ったりしています。写真入れ自由に見たり、花を飾ったりして居心地よく過ごして貰っています。	平屋に3ユニットの建物は、それぞれのユニットに広い居間を有しており、大きくてゆったりと座れるソファが設置されている。行事の際には、全ユニットの利用者が一堂に会する機会を設け楽しんでいる。また、日常的にユニット間の交流を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファを自由にし使用し、気の合った人と談話したり、歌を唄ったり、テレビを観たりして、自由に過ごされてみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て貰い、生活の延長をして頂き、居心地よく過ごされるように、配置にも工夫されています。	個別空調を完備した清掃の行届いた居室の窓からは長閑な田園風景が広がり、十分な採光を確保している。室内に家族の写真や利用者の手作り作品を飾り、居心地の良い居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ラジオ体操や外での行事ができる広いスペースがあり、自由に散歩したり、畑を見に行ったりして安全に活動できる環境を作っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家 (2号館)		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成24年 9月11日	評価結果市町村受理日	平成24年11月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kani=true&JiyousoCd=2373700315-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援で、週1回くらい近くの喫茶店へ出掛け、コーヒー等注文し一時を語り合いながら楽しく過ごされています。 ・お食事は 朝 昼 夕 手作りで、皆さん楽しみにされている様です。 ・カラオケを唄う設備があり、3号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指します。 ・個別ケアとしてはなかなか出来ないが、月に一度、利用者職員で手作りし、食事会を催している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れをさせていただきます。中学校の行事、地域の秋祭りに参加したり、子供の会資源回収に協力しています。回覧板を活用し、行事等を伝達しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽にホームに見える様に、日頃の行事を通して顔なじみになり、認知症の方々の自立されている姿を理解し、知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り上げられた検討事項や経過報告を行っています。また生活安全係、区長に講演をして頂き、更なるサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者や情報交換を行っています。福祉課の窓口施設案内のパンフレットを置き、アピールしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は日頃より4本柵や、日中の鍵かけには声掛けを行い、身体拘束をしないケアを意識し実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近、後見人をたてている利用者が増えているので、専門的な知識のある方を招き、少しずつ学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、毎週月曜日に昼礼を行い、職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多々に研修に参加したり、職員間で話し合ったりして、一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの稲沢 重本の家と交流を図り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。本人の不安・希望・困っている事などをよく聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかでハリがもてる生活出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者様の日々の様子や職員の思いを伝える事により、本人を支えて行く為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けていましたが、お互いに高齢化して交流が困難な現状なので、継続的な交流出来る様に支援に取り組みたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、全館で午前中はラジオ体操・歌を行い、午後からはカラオケ・レクリエーションを職員も一緒に行い、利用者様同士の関係が円滑になる様に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、遊びに来て貰う等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他の利用者との共同生活の中で、全て満足のいく介護は難しいですが、少しでも生活しやすい空間の提供に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅で過ごしていた様子などを会話の中から見つけ出し、本来の生活スタイルに近い介護を目指しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態の把握を行い、可能性を伸ばせる声かけと、やる気のおきる声かけに努めて、心身の健康維持を目指しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者は、なかなか自分の思いを伝えられませんが、担当者は会話のはしはしの中から思いをくみ取り、反映させるようにしています。また、少しでもその思いを活かした計画作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に観察が必要な利用者は、個別記録を行っています。スタッフは変則勤務で一同に会議を組む事ができない為、申し送りノートや詳細記録を活かし情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院等の支援の対応をしています。また、ご家族の要望で外泊や外出の申し出のあった時には、対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度、運営推進委員会を開催して、区長、民生委員、市の職員様をお招きして、利用者様が安心して暮らしていける様に、意見交換会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望に対処しています。(入居以前の馴染み医療機関があれば継続)通院介助は家族と協力して行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご高齢の方が多く、体調や日々の変化を見逃さないように、毎日決まった時間にバイタルチェックを行っています。少しでも変化があれば、職員間で話し合い、観察と記録を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合には、安心して治療される様に、ご家族や病院関係者と連絡を密にとり、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の生活状況は、月に一度の蓮池便りで家族に伝えていきます。特変時の対応については、入居の際に文章で家族の意向を確認しています。また、急変時には、家族やキーパーソンとの連絡がスムーズに行えるように、来所時をお願いしています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、訓練を行っています。また、施設独自での急変や、事故対策のマニュアルにも取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯と夜間帯を想定した訓練を行っています。また、施設独自での事故対策のマニュアルにも取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、慣れ合いや特別扱いがされていないか、気を配っています。そして利用者は人生の先輩である事を念頭に置き、ご本人の気持を考えて、声かけと介護にあたっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中からも、ご本人の思いや希望をくみ取り、利用者に寄り添った介護に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに添った介護が必要とされるが、集団生活で時として業務を優先する事があります。けれど利用者からの望みには正面から向き合っていきたいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、お洒落が出来る様、支援しています。移動美容院で、希望に合わせたカットや毛染めをして貰っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は何よりも楽しみの1つです。利用者には、簡単なお手伝いを毎日願っています。また、テーブルのセッティングや食事の席は、不定期ですが状況に応じて変更しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記入しています。特に体調を崩されている時には食事形態を変えたり、補助食を使う事もあります。脱水状態にならないように水分補給にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けと、必要に応じて介助をしています。ご本人の力に応じた口腔ケアをしています。胃ろうの方は、歯磨きと舌ブラシを使い、口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄帳を活用して、尿意間隔をとかみ早の声掛けや対応を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が出来る様に、水分補給やラジオ体操、散歩等の参加を促しています。それでも改善されない時には、医師に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の楽しみの一つです。自立している利用者には、個別に応じた対応で月、木、土曜日に入浴を行っています。この時に全身観察と、月1の体重測定を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様に、なるべく日中の活動を促し、生活の流れが整う様に一人々が安心して気持ち良く眠れるように支援しています。眠剤を服用されている方もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は夜勤者が翌日の分をセットします。利用者が皆さん寝てから、呉薬セットがないように落ち着いてから行います。服用の際には、名前の確認と服用の確認を行い服用介助します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人々が喜びのある毎日を過ごせる様に、レクリエーションや散歩などの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望は叶えてあげたいが、金銭的な問題などがあり、なかなか現実難しいです。手軽にできる、手作りおやつや食事会を全利用者とスタッフで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できない利用者は、事務所で預かっています。お小遣いを持っていても、近くにお店や販売機も無く、お金をつかう機会がありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話にもスタッフが側につき、電話をして頂いています。ご家族以外の人にも、コミュニケーションをとれるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には季節感のある飾り付けや写真などを貼り、スタッフと利用者が一緒になって取り組んでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファの配置に配慮して過ごして頂いています。利用者間で、トラブルがあった時には席替えをする事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂き、落ち着いて生活ができる様に居心地良い空間を提供しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクリエーションで、昔懐かしい土筆の袴取りやフキのすじ取りをして楽しみました。これからは定例のラジオ体操や歌の時間など集団生活を活かして、刺激のある日々を提供できるように取り組んでいきます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家 (3号館)		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成24年 9月11日	評価結果市町村受理日	平成24年11月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiyosovoCd=2373700315-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成24年 9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援で、週1回くらい近くの喫茶店へ出掛け、コーヒー等注文し一時を語り合いながら楽しく過ごされています。 ・お食事は 朝 昼 夕 手作りで、皆さん楽しみにされている様です。 ・カラオケを唄う設備があり、3号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指します。 ・個別ケアとしてはなかなか出来ないが、月に一度、利用者職員で手作りし、食事会を催している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れをさせていただきます。中学校の行事、地域の秋祭りに参加したり、子供の会資源回収に協力しています。回覧板を活用し、行事等を伝達しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が気軽にホームに見える様に、日頃の行事を通して顔なじみになり、認知症の方々の自立されている姿を理解し、知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り上げられた検討事項や経過報告を行っています。また生活安全係、区長に講演をして頂き、更なるサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者情報交換を行っています。福祉課の窓口施設案内のパンフレットを置き、アピールしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は日頃より4本柵や、日中の鍵かけには声掛けを行い、身体拘束をしないケアを意識し実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近、後見人をたてている利用者が増えているので、専門的な知識のある方を招き、少しずつ学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、毎週月曜日に昼礼を行い、職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、運営に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多々に研修に参加したり、職員間で話し合ったりして、一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの稲沢 重本の家と交流を図り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。本人の不安・希望・困っている事などをよく聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかでハリがもてる生活出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者様の日々の様子や職員の思いを伝える事により、本人を支えて行く為の協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けていましたが、お互いに高齢化して交流が困難な現状なので、継続的な交流出来る様に支援に取り組みたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、全館で午前中はラジオ体操・歌を行い、午後からはカラオケ・レクリエーションを職員も一緒に行い、利用者様同士の関係が円滑になる様に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、遊びに来て貰う等、継続的な付き合いが出来る様に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声を掛けて、言葉や顔の表情から気持ちを察し、心の声に耳を傾ける様に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に昔の話しを聞いたり、家族の訪問時に話しを聞いて把握に努めている。職員は聞き取った話しなどの情報共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々の状態の把握に努めている。日常の中で可能性を探り出し、伸ばす方向に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で思いや要望を聞き、状態に変化があれば職員間で話し合い、ケアプランに活かし見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録をつけ、いつもと様子が違う時は詳細記録に記入し、職員間で情報を共有、介護計画の見直しに活かすようにしています。朝礼で、各館の利用者の身体情報の申し送りも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等の支援の対応をしている。家族の要望に対応し、外泊や外出が出来る様に臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしが続けられる様に、運営推進委員会を2カ月に1度開き、区長・民生委員・市の職員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望に対応している。通院介助は家族と協力し続けて行きたいが、生保の方も多く、ほぼ全員の方の介助を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さない様に、毎日決まった時間(朝・夕)にバイタルチェックを行っています。特変のあった場合、随時対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、安心して治療出来る様、また病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やキーパーソンの意向を聞き、来所持には状態の説明を行っています。主治医とも相談し、状況変化があった場合、その都度対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時には冷静に判断し、落ち着いた対応が出来るよう心掛けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が大事なので、地域との協力を得られる様に築いて行きたい。職員の役割分担を決め、目にふれる所に分担表を貼って、確認できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちをよく考えて、良いケアが出来る様に、誇りやプライバシーを損ねないように、一人々に合わせた対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、実践できるように努めていますが、実践できない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の業務の流れの中で、一人々のペースを大切に、希望に沿って支援して行きたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、お洒落が出来る様、支援している。移動美容院で、希望に合わせたカットや毛染めをして貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの1つです。温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、家族的な物を召し上がって頂いています。嫌いな物があれば、代替を用意する事もあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記入している。午前・午後のオヤツの水分摂取を行い、随時一人々にあった水分量を確保できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けと、必要に応じて介助する。自分で出来ない利用者様には、口腔内が清潔に保てるようにケアをし、本人の力に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人々の排泄パターンを把握する。オムツ対応の場合、パットは最小限に抑える様にしている。(家族の金銭的な負担を軽減)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が出来る様に、水分補給やラジオ体操、散歩等の参加を促す様にし、便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立している入浴者には希望を聞き、対応している。職員の都合で変更・中止等はせず、個々に合った支援をしていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様に、なるべく日中の活動を促し、生活の流れが整う様に一人々の当日の体調・気分により、安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には本人に手渡し、確実に服薬できたか確認する。薬の処方の変更や、利用者様の体調の変化が見られた時は、詳細の記録と申し送りをし、対応するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある1日を過ごせる様、一人々の楽しみや気分転換の支援、出来る事はやって頂き、少しでも生活の張りをもって頂けるよう、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人々の当日の希望に沿って、戸外に出掛けられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事で安心される方には、渡しています。自分で管理できない利用者は、事務所で預かり、欲しい物があれば職員が買い物の代行をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族以外の人にもコミュニケーションをとれる様、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付け等、雰囲気作りを、利用者様と一緒に取り組み、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせる様、工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファの配置に配慮し、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂き、好みの物を使用し、居心地よく過ごせる様、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋外に広いスペースがあるので、ラジオ体操や歌、喫茶店を開く等して活用している。利用者様が日常的に楽しみながら、活用・活動できる環境を作っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の思いを1つにまとめた方針を共有する事で、さらにチームワークを強化する事ができるであろう。	朝礼・昼礼・職員会議の内容の充実を図る。業務中の短時間ではあるが、館長からの打ち出しに呼吸を合わせていく。	朝礼(毎日)昼礼(週間)職員会議(月間)の見直し。伝えたい事柄を事前に号館ごとで話し合い、簡潔にまとめておく。会議終了後参加していないスタッフに申し送る。(記録)	6ヶ月
2	35	いざという時には、地域の協力は不可欠であろう。地域の協力を得た避難訓練の現実を期待している。	施設では色々な想定をし、防災91練を定期的に行っています。今後は防災訓練に地域側からまた、地域で行われている防災訓練に施設側からの参加に向けて取り組んでいきたい。	現在地域区長には積極的に訓練参加の話しをお願いしている。年明けには施設で区長の防災講演予定もあります。また地域で行われている清掃(神社)等の参加への気持ちも伝えている。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。